

日本信頼性学会論文執筆要領

論文の作成に関しては以下の事項を参照し、原則としてテンプレートに従って作成すること。

1. 題目

論文には、正確にその内容を示す題目（和文および英文）を付けること。英文論文の場合は英文のみとする。

2. 著者名

和文と英文の両方を表示する。英文論文の場合は英文のみとする。

3. 所属機関名

第1頁の左の段の下方に入れる。

- ・本文の文章の下に実線で区分し、必要行数を使う。
- ・研究を行った機関名を記す。研究を行った機関名と現所属が異なる場合は、機関名の後に（ ）を付けて現所属名を（現在 ××会社）と記す。
- ・大学院生、学部学生の場合は、○○大学大学院博士前期課程○○研究科○○専攻、○○大学○○学部○○学科のように記す。

4. 要旨

題目／著者名の下に記載する。英文論文の場合は英文のみ、和文論文の場合は和文・英文の順に両方とする。

- ・和文は 300 字程度とする。
- ・英文は 100 words 程度とする。

5. 論文のキーワード

要旨の下に英文論文の場合は英文のみ、和文論文の場合は和文および英文それぞれ 5 個程度のキーワードを付けること。

6. 本文

- 1) 参考文献の引用方法：引用内容の後に、著者名（姓のみ）と文献番号を記す。共著者が 2 名の場合は両者の姓を書く。共著者が 3 名以上の場合は、第 1 著者の姓に"ら"（または、et al.）を付ける。
(例 1) Yin and Silio [1]
(例 2) 山本・水野 [2]
(例 3) Miller et al. [3]
(例 4) 鈴木ら [4]
- 2) S I 単位：単位は原則として S I 単位を用いる。
- 3) 謝辞：本文の最後に記す。
- 4) 参考文献：本文末にリストとしてまとめて入れる。第 1 著者名の出現順、またはアルファベット順（日本語の場合はローマ字として見た場合の順序）とする。

7. 分量

原則として 12 ページ以内とする。ただし、ショートノートは原則として 6 ページ以

内とする。

8. テンプレートの使用

次の URL より LaTeX, あるいは MS Word のテンプレートをダウンロードし, 論文作成に使用すること。

https://www.reaj.jp/modules/pico/index.php?content_id=35

9. 提出

原稿はハードコピー3部とする。最終原稿はハードコピー1部に電子媒体を添付すること。

10. 校正

論文の校正は著者が行う。

11. 参考文献記載の方法

1) 雑誌

雑誌名の省略の仕方は原則として ISO に従う。

・記載方法：著者名 (年)：題目, 雑誌名, 巻, pp. 初ページ-終ページ。

(例) 信頼駿夫, 故障無代 (1994)：“指数分布におけるエキスパート知識による信頼度表現”, 信頼性, Vol. 17, pp. 123-130.

・和文誌は和文, 外国誌はその原語で記載する。ただし, 英文原稿において和文誌は英訳する。

・号ごとに頁が改まる場合は, 巻の後に No. ××と入れる。

2) 単行本

・記載方法：著者名 (年)：書名, 出版社, pp. 初ページ-終ページ。

・和文書は和文, 外国書は原語で記す。

(例) 信頼駿夫, 故障無代 (1994)：信頼度予測, 日科技連出版社, pp. 359-384.

3) 学会講演論文集, Proceedings 等

雑誌に準ずる。ただし, CD-ROM の場合にはその旨を明記する。

(例) 信頼駿夫, 故障無代 (2007)：“故障データの統計的解析”, 日本信頼性学会 第20回秋季信頼性シンポジウム講演論文集, pp. 56-64.

(例) Shinrai, S. and Kosho, N. (2003)：“Statistical Methods in Failure Data Analysis,” in *Proceedings of the 2003 Annual Conference, Reliability Engineering Association of Japan*, pp. 217-225.

4) 特許

記載方法：発明者 (年), 特許名, 国名, 特許番号。